

## 平成 23 年度 第 3 回 平塚市博物館協議会 会議録

### 開催日時

平成 24 年 3 月 9 日（金）10 時～11 時 30 分

### 開催場所

平塚市博物館 特別研究室

### 会議出席者（敬称略）

会 長 立山 洋典

副会長 牧野 久実

委 員 宮川 重信、石綿 進一、毛利加代子

事務局 鳳館長、澤村館長代理、下田主管

### 会議の概要

#### 1. 館長あいさつ

#### 2 議事

##### （1） 報告事項等について

- ・ 平成 23 年度事業報告
- ・ 平成 24 年度当初予算について

##### （2） 平成 24 年度事業予定について

##### （3） 春期特別展について

##### （4） その他

- ・ 事務連絡等

### 議事

会 長 それでは会議に入ります。本日、村松委員から欠席の連絡をいただいておりますが、出席者が過半数に達しておりますので、「平塚市博物館の設置及び管理等に関する条例施行規則」第 23 条の規定により、本会議を開催し、成立することを宣言します。

また、傍聴者の取扱いについては従前のおりいたします。本日の会議の傍聴者について事務局から報告をお願いします。

事務局 本日の傍聴者はありません。

会 長 ただ今事務局から報告がありましたとおり、本日、傍聴者はありません。

それでは、次第に従い議事に入ります。まず、「議題（1）報告事項等について」です。最初に「平成 23 年度の事業について」ということで、事務局からの説明をお願いします。

(議題 (1)「平成23年度事業報告」について澤村館長代理が協議会資料により説明)

- 委員 プラネタリウム一般投影の回数を臨時で増やしたということでしたが、適正な回数というほどの程度なのでしょうか。
- 事務局 他の教育事業の実施や、調査収集など資料蓄積のための事業、学芸員の資質向上のための情報収集や研究を考えますと、例年どおりの200～250回程度が当館の場合適当と考えます。
- 委員 基本的にプラネタリウムの投影というのは、学芸員がやるもの、専門性が必要なことなのですか。たとえば外部にとかアルバイトでまかなうようなことはしないものなのでしょうか。
- 事務局 他の施設では、録音テープを流すような投影方法もないわけではありません。が、星空は毎日変化するもので、プラネタリウムは本来当日の星空を見ていただく必要があります。それには相応の知識を持つ人間が必要で、学芸員の解説が望ましいと考えます。
- 委員 昔から生(なま)投影というのがあって、当日のお客さんの層に合わせて解説者が肉声で解説をしていくのを持ち味とするプラネタリウムと、それに対し機械的にテープを流していく、応答は関係なく、という所があります。私も生の解説をやってきたわけですが、平塚はお客さんの層に合わせていくという方向性を、維持していただきたい。誰でもできる投影は、平塚がやらなくても、他でもできるのですから。
- 委員 今の報告では、利用者数ということで、成果を示していたのですが、どこの博物館でもそうだと思いますが、入館者数で評価されるようです。が、中で言われたように、学芸員のスキルアップということが、将来の博物館のためには大事なことです。プラネタリウムに限らず学芸員全体のスキルアップを図るには、ある意味での時間の余裕がないと大変だと思います。一年二年の勝負ではなく将来的に見て、研究調査収集等に費やす時間を与えるような環境づくりが必要かと思います。私も長く研究をやってきましたが、見ていて大変だなあと感じています。国はまずまずなのかもしれませんが、県や、市と至るに従って業務が増えて、それまで学会や研究に出ていた人が遠のいて行ってしまう傾向があります。やはり環境作りが重要だと思うのですが、どうなのでしょうか。
- 事務局 市の人事などでも、そうした点では理解をしてくれています。が実際には、直接市民と対応する場面が多くなる施設の中では、やりたいと思う研究があってもある程度制限される環境はやむを得ないだろうと、むしろそういうところから、市民の力で研究を進めたりとか、工夫をしてやっています。また天文の方でも、今年度は投影が多かったわけですが、これが永遠に続くわけではないので、どこかで落ち着くと思います。その中で、時間をうまく使って調査研究等をすすめてもらいたいと思います。この頃は研究所や国の施設でもアウト・リーチということで、情報がどんどん出てきますので、情報の収集や、映像資料の借用などが楽になりました。それらを活用して効率的な活動が、調査においても可能になっています。

委員 10月、11月の団体見学が多いのは、どんな団体が利用するのでしょうか。市外からの利用も多いようですが。

事務局 データでは子どもの比率が高くなっています。小学校の団体での利用が主です。

委員 子ども会などもありますか？

事務局 子ども会もありますが、割合としては学校が多くを占めています。

(議題(1)の続きとして「冬期特別展『大雄山参道二十八宿灯』結果報告および「博物館文化祭ーサークル活動展示・発表」実施結果について澤村館長代理が協議会資料により説明)

委員 冬期特別展は、前回見せてもらいましたが、すでに身近な所にあるものを、見落としがちな、今までとは違う視点から魅力を紹介していて、大変面白いと感じました。

委員 博物館文化祭ですが、それぞれのサークルは担当する学芸員がいると思いますが、こうした事業の場合、また全体を統括する学芸員が誰がいるのですか。

事務局 文化祭を担当する学芸員を一名決めて、事務局的な仕事をしています。

委員 どのくらい、それぞれのサークルが自立してやっているのか興味があります。いかがでしょうか？たとえば天体観察会では、会の方がプラネタリウムをやったりなどということはあるのでしょうか。

事務局 サークルによって差があります。どちらが良いというわけではありませんが、例を挙げると、古文書講読会では、会員の中に、他の会員を指導できる方が既について、かなり自立して活動が行なわれています。また、ご質問にありました天体観察会では、一般向けの「星を見る会」のときには、望遠鏡の操作や指導を行ったり、プラネタリウムで星を解説したりしています。

事務局 社会教育や生涯学習の施設では、さまざまなサークル活動が行なわれていますが、博物館の場合は、学術的なものを一本背骨に通した上で、活動を展開すべきです。その際に学芸員が機能するものといえます。

委員 私のいる公民館では、149の教室が開催されていて、それぞれが楽しみとしてやっているわけですが、そういうサークルの人々が時々「今日は博物館に勉強に行く」と言ってきたりします。だから博物館は同じサークルといってもちょっと違うと思います。できれば博物館のサークルで学んだことを、今度は地域で生かせないかと思うのですが。

事務局 そう思います。いわゆる「知の循環」が行なわれて、地域に還元できる姿がひとつの理想と思います。

委員 石仏の会などは継続的に冊子を作っておいでですが、他の会も、文化祭の展示や発表のレベルが非常に上がったとのことですから、ここまできたら何か形に残せないかと思うのですが。

事務局 たしかにおっしゃる通りなのですが、展示、口頭での発表までできて、けれどもそれを文字にするというところには、もうワンステップが必要で、このステップがなかなか骨

が折れるようです。課題としたいと思います。

委員 サークルと学芸員での「共著」などの形態はあるのでしょうか？

事務局 最近でも地質の会員の方ですとか、「星まつりを調べる会」などが行なっていますし、館主催ではありませんが湘南コケの会がまもなく出る調査研究報告に執筆しています。

委員 アンケート結果が報告されていますが、館にとって都合が良いものばかりになるとは限りませんから、いろいろ難しいこともあろうかと察します。たとえば、文化祭の中に、実施時期の注文を館長さんを名指しして提案しているものがあるようですが、こういう場合どうされるのですか。

事務局 提案内容には、実施時期に健康上の理由があります。時期の変更は他の事業との兼ね合いがありますが、部屋の環境については空調機の改善などで対応しようとしているところです。

事務局 資料には記しませんでした。このご提案にはご本人のお名前もあったので、直接事情をご説明しました。

(議題(1)の続きとして「平成24年度当初予算について」 鳳館長が協議会資料により説明)

委員 耐震化などは博物館ではどうなっていますか。

事務局 博物館では耐震診断をこれまで一次診断、二次診断と実施しました。ところがそれでは済まず三次診断が必要ということになりました。その予算を要求していますが、まだ実施ということには至っていません。学校の耐震化が終わった後になろうかと思われま

(議題(2)「平成24年度事業予定」について澤村館長代理が協議会資料により説明)

委員 昨年人気の「平塚学講座」は、予定されないのですか。

事務局 昨年とは若干やり方を変えようということで、時期もたとえば秋からと考えていますので、この時点での表に載せませんでした。実施する予定です。

委員 美術館らとのコラボ事業の他に、博物館として市制80周年に取り組む事業はありますか。

事務局 夏期特別展の「古写真で綴る平塚の暮らし」が80周年記念事業です。

委員 これは、郷土出版社から文書が回っていましたが、あれと関係があるのですか。まったく別の企画なのですか

事務局 別の企画です。内容がかぶる部分もありそうですが、博物館は提供いただいた写真を博物館なりの視点で捉えることで、別角度から平塚の過去を紹介できると思います。

委員 50年くらいより前といえば公害がいちばん取りざたされた時で、川が泡だらけだったり、魚が変死したりということが騒がれました。そうした写真があれば自然の変化という視点が生まれます。そうした写真について、環境科学センターに問い合わせみてはいかがですか。

事務局 ありがとうございます。今のところ、市民の方に写真を公募している段階です。現在のところでは、当時の家庭での写真の用途を反映して、家族の人物を中心にした写真や、旅行先の写真などが多く、それでも当時の衣服や風俗などがわかります。

委員 集まってから視点を選ぶのは大変ではありませんか？ 公募時にテーマを設定しているのですか。

事務局 例は挙げましたが、門戸を広くしたいので限定はしていません。むしろ提供者の視点で絞られてしまわないよう、できればアルバムごとお持ちいただいています。

(議題 (3)「春期特別展について」栗山主管兼学芸員が協議会資料に沿って説明。また鉄製舌長  
鍔実物資料を見学しながら解説。資料についての質疑応答あり)

委員 中世については初めての特別展ということですが、お寺などに、これは誰の直筆などと伝える品がある場合があります。真贋は別としても一般の方には興味を引きます。今回はそういった品も展示されるのですか。

事務局 ここにある馬具が展示の目玉ですが、その他、真田城の堀の遺構から出土した品、たとえば鉄砲の弾丸などを展示します。これも大変珍しいものです。人骨とともに出土していますが、堀の底の地層より上ですので、ここで戦死した遺骨というより、後のものではないかと私は見えています。

#### (5) その他

- ・次回日程は平成 24 年 5 月とし、新委員を迎えての開催となるため、委員決定後事務局から詳細打診することを申し合わせる。

館長挨拶と閉会